

酒々井町郷土研究会会報

第87号
平成10年1月1日発行
酒々井町郷土研究会
広報部

本佐倉城跡周辺の散策(四)

高橋健一

6 浜宿湊

鹿島香取海の入り江のひとつであつた印幡浦は、室町時代後期の僧侶道興准后(近衛房嗣の子)の紀行歌文集「廻国雜記」文明十八年(一四八六)十月朔日の記事に「けふ小春のしるしにや、いさゝかのどかに待ければ、みなくいなほの湖水にかびて舟のうちにて酒など興行し待りき、富士のね湖にうつれる心をみなくよむべきよし申しければ」と記されています。いなほの湖(印幡浦)には舟が浮かび、富士山の姿もきれいに見えたようです。

道興准后は文明十八年六月に京都を出発し、若狹、越前、加賀、能登、越中、越後、上野、武蔵、下総、上総、安房、相模、下野、常陸、武蔵、相模、伊豆、相模、武蔵、甲斐、武蔵、下野、

奥州というコースで、翌長享元年五月まで東国各地を巡歴しました。

印幡浦に面した大佐倉の浜宿には、戦国時代から江戸時代にかけて水運で賑わった浜宿湊(浜宿河岸)がありました。その跡は水田化されたため見ることはできません。聞くところによると、湊の跡は固くしまった砂地であつたとのことでした。

謹賀新年

平成十年元旦

この浜宿湊は佐倉と関宿(現・千葉県関宿町)とを結ぶ重要な基地でした。北条氏康(北条氏政の父)は、関宿の地を手に入れたことは、一國をとつたことと同様であると述べています。(喜連川文書)。また、関宿の北西方、栗橋(現・茨城県五霞村元

栗橋)と古河とは水路で繋がっていました。

永禄十二年(一五六九)以前の七月十四日に、古河公方足利義氏は家臣豊前山城守に書状を送っています(豊前氏古文書抄)。

その書状の文言には「去朔日従佐倉罷帰候哉、折節洪水路次、労働思召道候」とあり、豊前山城守が佐倉から古河へと帰るに際し、洪水に遭遇したことが記されています。豊前山城守は本佐倉城主千葉胤富と親交のあつた人物ですが、永禄十二年十月六日の三増峠(現・神奈川県愛川町)合戦で戦死しました。天正四年(一五七六)九月二



十三日には、栗橋城主北条氏照(北条氏政の弟)が、佐倉(浜宿湊)と関宿の間、葛西と栗橋の間を往復する氏照の被官船一艘の安全を保証しています(会田文書)。

また、天正十七年頃のものとみられる八月十八日に千葉氏家

臣原胤長に宛てた北条氏政書状(隠心帖所収中野忠太郎氏蒐集文書)には、川下より佐倉に船が自由に來航できるから、佐倉の地下中(一般庶民)も自由に商業活動ができる。佐倉に來る船に課税すると、船が減つて佐倉が衰微してしまう。どうしても課税しないならば、佐倉や関宿で商売を終えた戻り船にするならば反対はしない。新しい課税の方法を板に書いて広く徹底しなさい。その控書ができあがる前には絶対に、入り船・戻り船に課税してはいけない。もし課税する者があつたら頭をはねる。このことについて、反対する年寄(重臣)を集めて対決し、周知徹底させるように述べています。

このように、佐倉、関宿、栗橋、古河を結ぶラインは、古河公方足利氏や千葉氏、また北条氏にとって重要な交通路でした。文明十六年頃に本佐倉城が当地に築かれたのも、千葉氏と古河公方足利氏とが密接な関係にあつたこと、さらには水上交通路の確保という意味があつたようです。本佐倉城北方の浜宿湊は、佐倉の商業経済をささえる海の玄関口でした。



年頭にあたり

郷土研究会
会長 会田 香雄

明けましておめでとうございませう。皆様におかれましては、お元気に新春をお迎えのことと拝察いたします。

顧みますと郷土研究会発足以来二十余年、会員の皆様の絶大なご支援とご協力により、無事年輪を重ねる事ができ、幸いをかみしめているところです。特に昨年十二月十五日に千葉県文化財保護協会より、次の内容により団体功労表彰を受け、面目を施しました。「酒々井町郷土研究会は昭和五十二年に発足し、郷土史、文化財、野草等の研究と保護活動に多くの業績を残し、機関紙である会報は現在まで八七号を数え、地域の史跡や民俗について報告を随時掲載している。会の行事は史料による研修会、町内史跡めぐり、野草観察会、県内外見学等多岐にわたる。また町の石造文化財に関する調査を継続実施した外、本佐倉城跡の重要性を広く啓蒙に尽した功績は多大である。」以上の通り、誠に喜ばしい限りです。



今年も皆様と共にこの榮譽を忘れることなく、二十世紀に向け益々発展に努力しようではありませんか。終わりに、ご多幸を、会員の皆様のご健康とご多幸を、ご祈念申し上げ、年頭の挨拶といたします。



表彰状と受賞の方々

植物のはなし (四)
かどまつについてひとこと

亀井 香久乃

平成十年の新春を慶祝致し、瑞雲と共に輝く初日の出に先ずは健康を祈り、本年の計を立てられた事と存じます。

正月といえは門松です。大小の差はあれ、新年を祝う風物です。黒松の若枝と若竹の取り合わせは、古来から日本人の資質に合った祝い方ではないでしょうか。松は常緑の美、剛氣、永遠というような受け止め方があります。竹は人の性格を表わす場合、竹を割ったような、すばつとした邪気のない性格とか、竹に油を塗るといったら、弁舌の立つ人、若く美しい人を例える場合にも竹は登場します。

古くは平安初期に記された竹取物語は、現在でも映画等に作られています。竹取の翁に育てられた美麗なかくや姫は、あまたの貴公子及び、帝にまで求婚されても耳をかさず、八月十五夜の満月にとび去ってしまつた話は、汚れない竹の精をも重ね合せて、時代を問わず美しい御伽草子です。また小正月になれば、門松の枝先きを切り、鳥給松として松をはずした後に挿し立て、樹木や自然に感謝を表わす形態は、正月行事の清々しい滴出だと思いませんか。

一泊見学会

森田 艶子



朝日に目がさめた。天気は良さそう。郷土研に入会し初めて参加。会会長さんのお迎えをうけ、ちよつと嬉しい。公民館前に集合したところ、皆揃つての旅の出発です。

この度は折悪く東名高速道路の補修工事中で、渋滞で犬帽の近れ。七時間にして午後二時のおそい昼食になりました。一番目の見学場所の「岡崎城」の資料館では、あんなに重い鎧を身につけて、善くも戦つたものだと感心した。続いて岡崎公園のカラクリ時計にはビックリ!! 徳川家康が能装束を身につけて能を演じたのです。広場には菊の花のミズどな作品が展示されて、まさか「秋ぞすね」に「松寺」。「伊賀八幡」を見学して、本日の宿泊場所の愛知県蒲郡市西浦温泉の「東海園」に到着。七時より宴会、歌よし、踊りよし、温泉よしで皆元氣いっぱいでした。

お知らせ

史談会は「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」が去年十二月で終了し、今年から新たに「印梅郡誌酒々井町誌」などをテキストにして「印梅郡誌酒々井町誌」を学ぶと題し始まります。講師は引き続き高橋健一さんに担当させていただきます。お誘い合わせておいで下さい。

市原方面見学会に参加して

横山芳弘

十一月二十六日は、郷土研主催の市原方面日帰り見学会の日。この日を、丁度五十数年前の小学生の頃の遠足に行く日を持ちわびるのと同じ気持ちで待ち焦れ、毎日、テレビの気象情報に耳を傾け一喜一憂して、いよいよ前日の二十五日。夜七時の天気予報では、千葉県南部は曇、夕刻より雨との予報で、これで良しと床に就きました。

二十六日早朝に床を離れ、犬の散歩を済ませて早々に公民館前へと足を運び、八時二十五分に到着。早くも先着者十名前後の方々が集まられ、それぞれ話に花を咲かせて居られました。

やがて時刻となり順々にバスに乗り込み、九時に目的地の市原に向かって出発進行。道路は混雑もせずバスは順調に走り、九時五十分第一見学地の市原国分寺に到着しました。見学するも、正直に言って何等目新しく見学に値する対象物も目に入らず、説明も無く期待外れの感がしました。ナアングと言うのが偽らざる感想でした。

次いで第二の見学地の国分尼寺跡に到着、広々とした整地、これらが往時の尼寺のあった後と説明を受け、その偉大さを想像し驚嘆しました。国分尼寺跡資料館の館の説明者の解説で当時の様子を知り、その偉大さを感じます。其の説明に第一見学地であった市原国分寺についてつ

い前段で何ら目新しい見学に値するものが無きが如く記述致しました。説明や国分尼寺の全景縮小模型での説明を聞いて、認識を更正せざるを得ず、往時の壮麗さに唯々驚きました。また、これだけの施設を再建された市原局の熱意に敬意を表します。吾が酒々井町にも、これ位の熱意を持って町の発展に力を傾けられる方が町政に携わって居られたらならばなあ、と嘆息致しました。

次いで第三の見学地は昼食をとる処もある高徳神社に立寄り昼食をとる。此の項より雨足が強くなる。午後一時、次の見学地の光風台常住寺に向かう。此処ではお寺を見学するのでは無く、墓地に立つ石塔婆、印塔が一見の価値ありと知らされてお参りも早々に見学する。大小さまざまな異型の石塔の立ち並ぶ莊嚴さに感動しながらお寺を後にし、小湊鉄道五井駅に向かい、小湊鉄道開業最初の蒸気機関車三台を見学後、酒々井に向かい帰路につきました。

今回の見学は地味ではあったが、何故か後々まで想い出を残してくれれる感じがします。

見学会案内

日帰り見学会 3/25(水)

川崎大師・上総方面

川崎大師(川崎市)

川崎大師の由来は、八百七十余年の昔、無実の罪で諸国を流浪していた平間兼光といふ武士がこの地に住んだ。



ある日、夢の中で弘法大師よりのお告げを受け、海上より尊像を得た。高野山の尊像のむとに立ち寄り、大師自刻の像に接し、一寺を建立することとなった。大治三年(一一八二)のことと伝えられ、寺号平間寺は兼光の姓からきている。兼光が尊像を得たのが四十二歳のときで、厄除けの祈願をこめたこと、から厄除け大師としてあがめられた。

東京湾アクアライン

東京湾を貫き、川崎市と木更津市を結ぶ海底トンネルで、長さ世界第三位であるが、水底道路トンネルとしては世界一位である。最先端技術の進歩で、海峡の下にトンネルを掘って世界中の大陸を結びつけようという壮大な構想がある。詳細は見学会で。

高蔵寺(木更津市)

真言宗豊山派の寺。山号は平野山。文化二年(六四六)徳義の開基といわれ、天平年間(七二九)七四九)行基が来山して自刻の聖観音を安置。貞観年間(八五九)八七七)藤原時重が諸堂を修復して、寺観を整えたと伝えられる。寺観を整えたと伝えられる。寺観を整えたと伝えられる。



今年も初詣では鎌倉へ、ちよつひり朝が早いですが、一緒しましょう。鎌倉駅からバスで坂東三十三観音の第一番札所杉本寺へ、石段を上って仁王門をくぐると、のぼり旗がたなびく本堂へ、鎌倉最古の寺です。ちよつくりあじわいしましょう。

次は鎌倉五山第五位の浄妙寺へ、ここでは、ちよつくりとお茶などいたいたては如何でしょうか。(喜泉庵では菓子付抹茶五〇円で一服できます)又、鎌倉時代にゆかりのある人々の邸跡を見学しながら途中で昼食をとり、最後に光蔵寺へ、ここではちよつくりといわれのある仏像を拝観し、塩なめ地蔵にお詣りして鎌倉駅へ、ここで自由解散となります。時間のゆるすかぎり駅前でお土産などを買って、余り遅くならないうちに家路につきましょう。

ある日、夢の中で弘法大師よりのお告げを受け、海上より尊像を得た。高野山の尊像のむとに立ち寄り、大師自刻の像に接し、一寺を建立することとなった。大治三年(一一八二)のことと伝えられ、寺号平間寺は兼光の姓からきている。兼光が尊像を得たのが四十二歳のときで、厄除けの祈願をこめたこと、から厄除け大師としてあがめられた。

名勝探訪 1/18(日)

雨天代替 2/1(日)

鎌倉方面初詣で

今年も初詣では鎌倉へ、ちよつひり朝が早いですが、一緒しましょう。鎌倉駅からバスで坂東三十三観音の第一番札所杉本寺へ、石段を上って仁王門をくぐると、のぼり旗がたなびく本堂へ、鎌倉最古の寺です。ちよつくりあじわいしましょう。

次は鎌倉五山第五位の浄妙寺へ、ここでは、ちよつくりとお茶などいたいたては如何でしょうか。(喜泉庵では菓子付抹茶五〇円で一服できます)又、鎌倉時代にゆかりのある人々の邸跡を見学しながら途中で昼食をとり、最後に光蔵寺へ、ここではちよつくりといわれのある仏像を拝観し、塩なめ地蔵にお詣りして鎌倉駅へ、ここで自由解散となります。時間のゆるすかぎり駅前でお土産などを買って、余り遅くならないうちに家路につきましょう。

会計報告

市原方面日帰り見学会 11.10.28~29	
収入	24,500 × 24 = 1,022,000
	1,022,000
支出	8,730
八街観音(バス)	983,670
保険料	8,730
バス代外	12,182
お礼	11,000
運賃(200×2)	12,600
	1,027,162
162町部2町部2町部	
市原方面日帰り見学会 11.26(日)	
収入	1,000 × 59 = 59,000
	59,000
支出	20,600
町バス費用(200)	20,600
コピー代(お礼)	8,800
高蔵代(2日分)	11,600
運賃(200×5)	11,000
	52,000
残高200町部2町部-繰入金	

郷土研行事業内

1月～3月

	1月	2月	3月
史談会	休講	7日(土) 午後1:30 会議室 「印旛郡誌 酒々井町誌を学ぶ」 平成10年より新規開講 講師 高橋健一先生	7日(土) 午後1:30 会議室 「印旛郡誌 酒々井町誌を学ぶ」 講師 高橋健一先生
野草の会	1月30日(金) <u>七草粥を食べる会</u> 会場 中央公民館講堂 会費 700円 定員 70名 申込受付 1月25日(日) 午後1:00 (総会当日ロビーにて受け付けます。)	会場受付 11:30 会食開始 12:00 会場 中央公民館講堂 お手伝い頂ける方は9:00までに調理室にお出下さい。	
名勝探訪	1月18日(日) <u>鎌倉方面初詣で</u> 費用 ◎ホリデーパス(2,040円) ◎会費 1,500円程度必要 (拝観料・バス代) 雨天代替 2月1日(日) 場合によりコースの変更おします。	JR 酒々井駅 7:00 集合 (コース) = JR 酒々井駅 → 鎌倉 → 品川 → 林崎 → 浄妙寺 → 青砥藤綱邸跡 → 足利公方邸跡 → 明王院 → 大江元邸跡 → 光融寺(塩釜の地蔵) → 品川 → 鎌倉駅 → 酒々井 弁当・飲み物を持参して下さい。	
御成街道を探訪 (1)	2月4日(水) 午前10:00～12:00 中央公民館視聴覚室 御成街道講演会 講師 安藤一郎先生	定員 50名 受付 会長 会田秀雄迄まで TEL 043(496)4867 * 定員になり次第メ切ります。 いつでも申し込み下さい。	徳川家康が鷹狩りの為に三日三晩で造られたといわれる御成街道、船橋から東金まで続いているこの道の往時を偲び勉強します。
日帰り見学会	3月25日(水) <u>川崎大師・上総方面</u> 会費 5,500円 定員 46名 申込受付 1月25日(日) 午後1:00 公民館ロビー キャンセル 実施日3日前まで 会田秀雄迄までTEL	中央公民館 6:50 集合 (コース) = 酒々井 → 佐倉IC → 湾岸・有明・東海JCT・川崎ジャンプ → 川崎大師 → 湾岸川崎 → 東京湾アクアライン(海ほたる) → 神奈川IC → 木更津(昼食) → 高倉観音 → 葛葉田 → 牛久 → 妙楽寺 → 茂原 → 東金 → 酒々井 (17:30予定)	
第22回総会	1月25日(日) 中央公民館講堂 午後1:30 開会 受付 午後1:00 から受付。 年会費 年 1,000円 受付場所 公民館ロビー (同時に七草粥と日帰り見学会の申し込みを受け付けます。)	議事 ・平成9年度事業・会計報告及び監査報告について ・承認について ・平成10年度事業計画案及び予算案について ・その他	

月日	内容	参加人数	月日	内容	参加人数
10月4日	今年度行楽見学会の申込受付	8	11月26日	日誌見学会(田)歩原方面	30
8	申込済半数以上の野原見学会中止	—	27	総会	11
13日	中止の野原見学会代償 湾岸方面	30	12月30日	名勝探訪 八景町方面	28
12月	一泊見学会 豊和風足跡 湾岸方面	42	4日	会報編集会議 佐原市	6
11月6日	八景町方面下見	2	6日	申込会 懇親会 佐原市	3
7日	日帰り見学会(A) 湾岸方面	30	7日	運営委員会 平成10年度行楽見学会 申込会	18
12日	石所野原見学会 平成10年度1期行楽見学会 申込会	7	20日	会報編集会議 校正 広報紙	6
15日	球磨賞長形式 外 委員会	8	27日	会報会通	22

講師プロフィール
安藤一郎さん(1930)

千葉大学教育学部一回生、卒業後中学校社会科教師として38年間、千葉市内各校を歴任。その間、千葉市史調査員、研究報告に「両総の古道・御成街道」「かそり十話」「いなげ十話」「千葉氏を偲ぶ」「房総の六地藏」などがある。これらの郷土史研究を社会科教育に生かした実績が高く評価され、1981(昭和56)年第30回読売教育賞を受賞。

現在教職を退き、よみうり市立大学、千葉実業大学、千葉市内公民館等で数多くの郷土史講座を担当している。

(文責 金杉 焯)

あとかぎ
明けましておめでとうございませう。今年も暖冬で過ぎ易い日が続いてますね。昨日は本佐倉城跡が国指定の史跡になることになり、また、十一月には郷土研究会が、千葉県文化財保護協会から表彰されるといふ会員の皆様と喜びを分かち合えることがありました。

今年の文化展では絵馬展という事で、酒々井町内の絵馬を展示する予定ですが、その他楽しい行事が企画されています。お元氣なお顔をお出し下さいますようお願い致します。